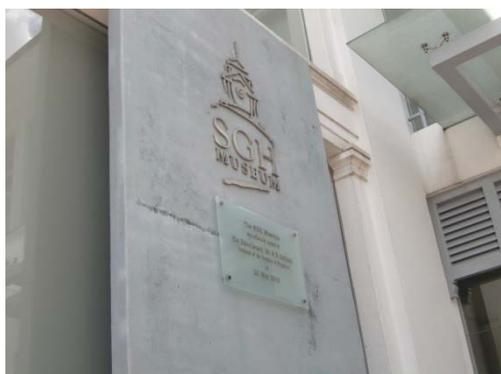


3月11日(木)

まとめ、SGH Museum、ディスカッション

佐藤直実

今日は午後からのスタートでした。まず SGH のミュージアムへ。このように独自の博物館があるのは面白いです。スタンフォードにもすごく立派な博物館があつてとても面白かったのを覚えています。ただ、実は東北大にもあるのではないかと思います…。行ったことはないですが。意外に自分の出身大学かつ就職先のことを知らないのではないかと考えさせられました。展示の中では、個人的に興味を持ったのは、歴史的な部分よりもむしろ、最近のトピックスを表示してある部分です。頭部で融合した双子の分離手術や、手の形成手術などのプロモーション映像のようなものがあり、シンガポールの最新医療が垣間見られて面白いと思いました。



【SGH Museum の外観】 【病院設立 200 年に開けられるタイムカプセル】

14 時から、ディスカッションならびにまとめのプレゼンテーションを行いました。ディスカッションは **Internal Medicine** の方が来てくれて、主に女性の働き方についての話になりました。女同士だとこの点が話し合えて興味深いです。シンガポールは国土が小さいことから家族が近くに暮らしていることが多く、華僑系が多いことから家族同士のつながりが非常に強く、出産後の女性の仕事を両親がサポートするのが当たり前のようです。また、欧米のように、シッターを雇うことも一般的のようでした。こうして結婚・出産を経た女性が高い地位を得ることも珍しくはないようです。その一方で、あらゆる先進国で問題になっているように、晩婚化・少子化が進んでおり、政府は国を挙げて出生率の増加を目指しているそうです。他には、今までどんな病院で研修したか、なぜ **General internal medicine** を選んだのかなど、色々聞くことができました。研修先はやっぱりマッチングで決まるみたいです。日本はそうではないんですね、と言われ、今はそうですよ、と言ったら驚いていました。日本は閉鎖的なイメージがやはりあるようです。



【ディスカッションとプレゼンの様子】

まとめのプレゼンはあまり準備をせずに臨んでしまい、最初ちょっと言葉に詰まってしまいました。でも言いたいことは言えたかなと思います。たった2日間の見学（しかも私は科が変わったので実質1日間）で何が分かるわけじゃないけど、それに東北大と他の病院が違うように、SGHを見たからってシンガポールの医療が分かるわけじゃないけど、でもこうして色んな人と出会えて、Dr. Tanが森谷先生の友人だったり、日大の原田先生に会えたり、たくさんの人と人とのつながりがあるって、それが生まれたのが一番の収穫でした。もちろん、異国の医療の現場を見て、雰囲気味わってということも大きいですが。これからも仕事を続けていけば、またいつか学会とかで会えるのではないかなと思います。論文で名前を見ることがあったり…。2日目の報告にも書きましたが、こんな風に先につながっていく出会いがあったってことが収穫だったと思います。



【おまけ：病院の売店で買ったシンガポールのお菓子です。マレーシアと中国の文化が融合して生まれたとか。色鮮やか！】